



# 丘の上だより

Vol.39  
令和元年  
5月発行



## 目次

- 第64回 九州精神医療学会特集 …… P2
- 厚生労働大臣表彰をうけて …… P3
- 九州集団療法研究会で …… P3  
司会を担当して
- 新ユニホームのご案内 …… P4
- 第15回 岩見淳三さん・YAYOIさん  
JAZZコンサート開催 …… P4

- 科学的な治療を、各職種チーム医療で誠実に提供します。
- 人権を尊重し、共に歩み、癒しをもたらす。再生を目指す医療を行います。
- 思春期から老年期までの精神医療と心身医療に広く取り組みます。

## 病院の基本方針

大分丘の上病院は、医療・保健・福祉を通して、人々の健康向上に寄与し、地域社会の発展に貢献する。

## 法人理念

## 第15回 岩見淳三さん・YAYOIさん JAZZコンサート開催

4月22日(月)に、第15回目となる岩見淳三さん・YAYOIさんのJAZZコンサートが行われました。

岩見さんの繊細なギター演奏やYAYOIさんの心温まる歌声に、参加したみなさんはじっくり聴き入ったり、手拍子をしながらリズムに乗ったりして過ごされていました。

後半には特別ゲストとして有里子先生、更には院長先生も参加し、『夜空ノムコウ』ではサビの部分の合唱もあり、会場が一体となり盛り上がりました。

お二人の音楽の力に元気をもらった会となりました。



## 新ユニホームのご案内

3月1日よりユニホームを一新し、職種により色分けをしました。

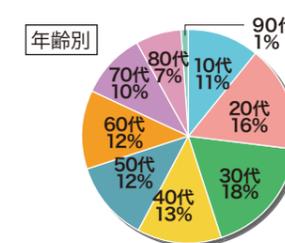
これまで以上に患者さんへの対応に努めます。



## 治療実績 (2018年度)

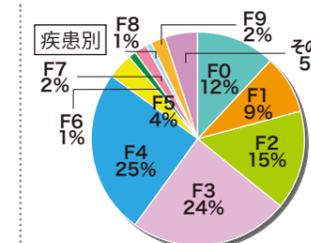
①新患 年間：362名  
(男性152名、女性210名)

※3ヶ月以上受診をしていない再診察の方も含む



新患の年齢は10代~20代まで98名(27%)、30代を入れると163名(45%)を占める。

認知症の周辺症状による問題行動が原因で受診される高齢者が多くなっている。



アルコール依存症、認知症の患者さんの入院紹介が多い。

不安障害、適応障害等の受診が多くなっている。

リワークプログラムを行っているので気分障害の紹介が多い。

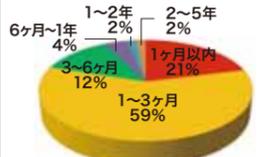
- F0 症状性含む器質性精神障害(認知症など)
- F1 精神作用物質の使用により精神及び行動の障害
- F2 統合失調症、統合失調症障害及び妄想障害
- F3 気分(感情)障害(うつ病、躁病、躁うつ病)
- F4 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害(不安障害、強迫性障害、適応障害など)
- F5 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群(摂食障害など)
- F6 成人の人格及び行動の障害(人格障害など)
- F7 知的障害
- F8 心理的発達の障害(自閉症、学習障害など)
- F9 小児(児童)期及び、青年期に通常発症する行動及び情緒の障害(他動性障害など)

## ②年間入退院数、平均在院日数

年間入院数：404名  
年間退院数：409名  
平均在院日数：102.4日

## ③入院期間

※年間退院者409名の動向



409名中、3ヶ月以内に327名(80%)が退院され、6ヶ月以内に377名(92%)の患者さんが退院されます。

## 病院までのご案内

- 大分駅より車で約25分(米良バイパスが近道)
- 大分自動車道米良インターより車で約10分
- 豊肥本線「中判田駅」より車で約5分



発行

医療法人 善慈会 大分丘の上病院  
理事長・院長 帆秋 善生

〒879-7501 大分市大字竹中 1403  
TEL 097-597-3660 / FAX 097-597-3657  
ホームページアドレス <http://www.okanoue-hospital.com/>

# 九州精神医療学会特集

2019年1月31日～2月1日

福岡国際会議場にて開催

今回、九州精神医療学会に初めて参加し発表させて頂きました。発表内容は退院支援に関わった患者さんの事例紹介を行いました。長期に渡る入院から退院に向けての本人だけではなく家族への支援を主に取り上げました。家族は本人の精神状態が改善したことにより生活環境が変わるのではないかと不安がありました。その家族の不安へ丁寧に対応することで、本院のみではなく家族とも信頼関係を結び退院へと進めることができました。

大勢の前で発表することは初めでしたのでとても緊張しました。しかし、大分丘の上病院の代表として恥じない発表をする為に何度も練習を重ね本番を迎えました。登壇するまでは隣にいるスタッフへ聞こえるのではないかと思っ



2病棟 看護師 濱砂 友輝

くらいに心臓がドキドキしましたが、いざ登壇するとその不安をかき消すくらい見ている方の話しを聞く姿勢に熱意を感じました。

その熱意に答えるべくハキハキとした発表を行うことができました。

貴重な体験をさせて頂きこの経験を今後の業務に生かしていきたいと思います。



地域生活サポートステーション 精神保健福祉士 橋本 遼一

学会にて、デイケアで実施しているプログラム、「IMR」について発表をさせて頂きました。

「IMR」は、10名以下の決まったメンバーで、希望と楽観主義を大事にしなから、「これからの人生」について考えていくプログラムです。今回の学会発表では、「IMR」に参加したことで、メンバーが「なりたい自分」に向けてどのように変化できたかを事例を挙げて報告しました。

今回発表の機会を頂いて、当院デイケアの取り組みを他機関に発信できる貴重な機会となりました。また、プログラムを実施するだけでなく、学会発表として今までの経緯をまとめることで、具体的に

IMRを実施する効果を振り返ることができ、今後のリカバリー支援の大きな指針になりました。

今後も自分の将来に希望を持ち、自分の人生について主体的に考えていけるサポートとして「IMR」を継続したいと考えています。



医療、看護、福祉の分野から300を超える発表演題があり、聴講する演題の選択に迷いましたが、最近の動向の地域社会で生活するための対応、認知行動療法(マインドフルネス)についての発表が印象に残りました。学会発表で自分では気づかない着眼点、創意工夫が勉強になり、今後の臨床看護に活かして質の高い看護が提供出来るように努力していきたいと思えます。



地域医療連携室 室長 精神保健福祉士 深川 徹二

今回、学会は座長として参加させて頂きました。多くの事例に関わることができて勉強になりました。精神保健福祉士の研究発表は個別支援から集団での関わり、退院支援など発表され色々な視点での関わりがあることを学びました。今後の実践に活かされればと思います。夜、みんなで食べた本場のもつ鍋は美味しかったです。



2病棟 看護師 福田 清秀

他の精神科病院がどのような取り組みをしているかを学ぶことができ、今後の仕事へのモチベーションに繋がりました。今後もこのような機会がありましたら、参加をさせて頂きたいと思えます。



2病棟 看護師 原田 節嗣

1/31・2/1の2日間、福岡で開催された九州精神科学会に参加させて頂きました。九州・沖縄管内の精神科病院の様々な研究を拝見・拝聴して、新しい知識や取り組みを知ることができる良い機会となりました。



2病棟 看護師 工藤 寿美

今回初めて学会に参加させて頂きました。いくつかの発表を聞くことができ、大きな会場で緊張しましたが、自分自身の視野も広がったように思います。

初めての経験でしたが、学習し続けることの大切さ、必要性を改めて考える機会になりました。



3病棟 精神保健福祉士 佐藤 政弘

今回初めての参加でした。準備段階でもたもたしていた為、短期間での仕上げとなりましたが題材も内容もとても良いものになったと思います。

今後はそれぞれの研究発表を参考にして仕事に頑張っていきたいと思えます。

## 厚生労働大臣

### 表彰をうけて



看護部長 塔尾 浩次

この度、3月18日(月)にパレスホテル東京で開催された、日本精神科病院協会創立70周年記念式典において、厚生労働大臣表彰を受賞させて頂きました。

この表彰は、精神保健福祉事業の功労者に与えられるもので、医師のみでなく、看護師、精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士、薬剤師、栄養士など、精神医療の現場に従事する、すべての職種が対象となっている表彰です。

今回の記念式典では、全国から150名の方々が表彰され、大分県からは大分県精神科病院協会の推薦を受けた、下郡病院の児島院長、大貞病院の宮本看護部長、親和会和らぎの里の後藤看護主任と私の合わせて4名の受賞でした。

会の冒頭、山崎会長より、「この70年は社会的偏見との戦いだった。」と感慨深く挨拶され、日本における精神科医療の現場で、先人の先輩がたの多大なる努力と研鑽の上で、今の精神科医療が存在している事実を再認識し、ここから引き締まる思いに駆られました。

その後、寛仁(ともひと)親王妃信子殿下よりお言葉を頂き、内閣総理大臣、厚生労働大臣(いずれも代読)、日本医師会会長より祝辞を頂きました。

式典終了後には、華やかな雰囲気の中



での祝賀会が催され、他県の受賞者の方々と親睦を深める機会も得ることが出来ました。

今回、私がこのような表彰の機会を得ることが出来たのも、平成5年に入職以来、院長の「開かれた精神科医療」「癒やしと再生」という理念に導かれ、試行錯誤しながら看護の実践にたずさわってきた褒美かな?と思っています。

もちろん、私1人の力でやれるわけもなく、ご指導頂いた院長はじめ先生方、先輩方、そして、スタッフ皆さんの支えがあったからこそこの表彰です。

そして、この表彰に慢心することなく、これまで以上に「患者中心の精神科医療」の実現に努力する所存です。

最後に、今回の表彰で推薦を頂いた院長はもとより、大分県精神科病院協会長の淵野先生に、あらためて感謝します。ありがとうございます。

## 九州集団療法研究会で

### 司会を担当して



心理療法士 林 憲造

2018年11月17日、第44回九州集団療法研究会が、福岡県の飯塚記念病院を主催として開催されました。当院からは、6名のスタッフが参加をし、その内、院長先生がコメントーターとして、また、私が別の分科会に司会者として参加しました。

私が担当した分科会では、韓国・大同(テドン)病院の心理士・金景貞さんの『青少年グループの一年半を振り返って』というテーマでの発表でした。コメントーターには、のぞみ総合心療病院の坂口信貴先生にお願いし、約20名の参加者での小規模な分科会となりました。

フロアや発表病院からはいろいろな意見が出ており、携帯電話の扱い、治療共同体の作り方、集団のルール(枠作り)と運営の苦労などが主に意見として出ていました。集団運営でどのように枠を作っていくのか、ルールを破らないようにするにはどうしたらよいかということも、どのグループも課題として抱えているようでした。しかし、そのルールを破った時にどのようにならぬかによって、失敗ではなく、個人の成長のきっかけとなりえるということが坂口先生からコメントされそれが非常に印象に残りました。

今回司会を担当して、非常に良い勉強になりました。しかし、司会者としてフロアから発言をあまり引き出せず、非常に力不足を感じました。今後もしっかりと集団運営があり、その際には司会リーダーとしても活動しますので、この経験を糧に、今後も頑張りたいと思えます。

